

三朝水稻栽培技術研修会 ～中干し編～

1. 中干しについて

(1) 中干しまでの水管理

- 田植え後、苗が根づいたら、1～3cm程度の浅水管理 → 茎の増加を促す。
- 水田に足を踏み込むと気泡が目立つ場合は田干し → 根痛みや分けつ不良を防ぐ。
田干しとは → 水を落とし、田面が乾かない程度に半日～1日程度干す。
ガスわきを放置すると → 下葉が黄化したり、株張りが遅れたりする。

(2) 中干しの目的

- 土を固め、作業性を良くすること
- ガスわきを解消すること
- 根の活力を高め、伸長を促進すること
- 葉色を適切に低下させ、過剰な生育を抑えること

根の健全化・穂数の適正化
品質、食味が向上する！

(3) 中干しの方法

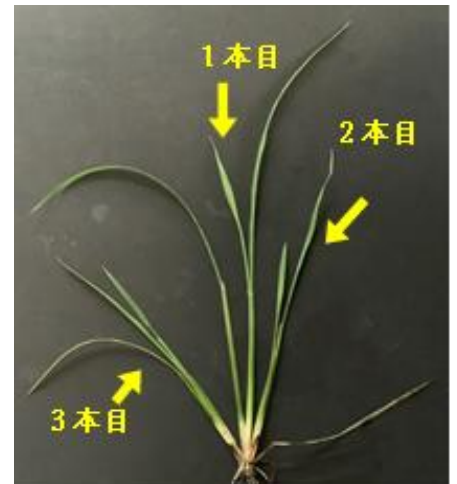
①開始時期

- 目安は田植え後30～40日ごろ

※下表の茎数に足りなくても、40日経過した場合は中干しに入る。

品種	株間18cmの場合 (60株/坪)	株間21cmの場合 (50株/坪)
ひとめぼれ	20本/株程度	23本/株程度
コシヒカリ・星空舞	16本/株程度	19本/株程度
きぬむすめ・日本晴	19本/株程度	22本/株程度

※標高150m以上の場合は、上表の茎数+2～3本



葉が2枚以上出ている
茎のみ数える

②中干しの期間

- 中干しは水田の中をスタスタと、容易に歩き回れる程度まで干す。
- 期間の目安は7～10日だが、天候、土質、株張りなどを考慮し、中干し終了を判断する。

※土が白くなり、水分が感じられなくなるほどの中干しは控える。

→大きなひびが入ることで、水田の水持ちが悪くなったりする。

※出穂の30日前にはイネが多くの水を必要とする時期に入るため、それまでに仕上げる。

→幼穂（茎の中にある穂）ができる時期に入り、以降の水不足は収量に悪影響を与える。

(4) 中干し後の水管理

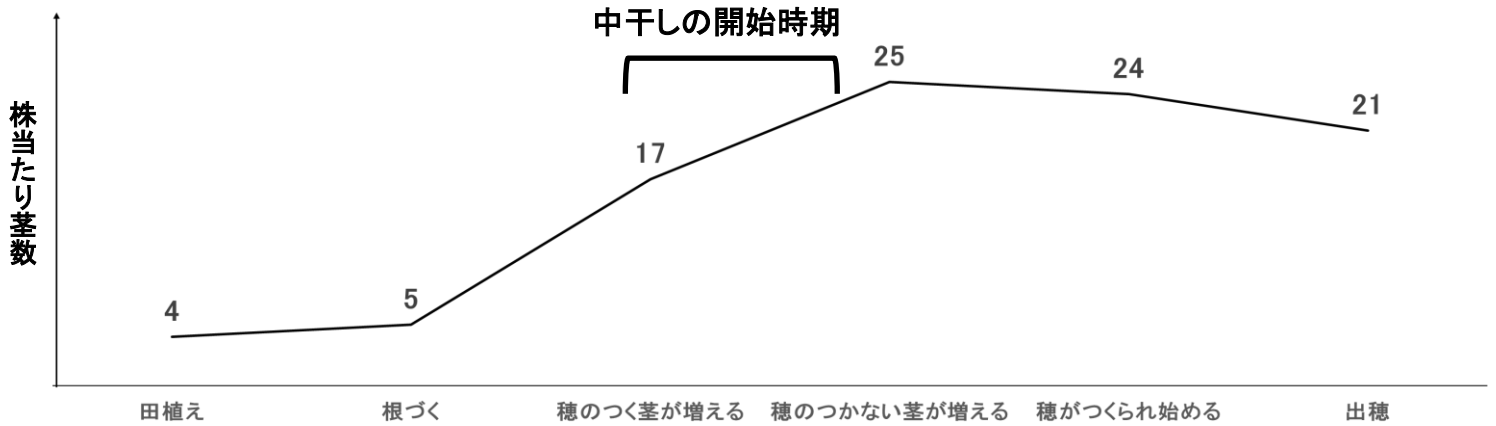
- 中干し後はいきなり水をためず、2日間程度は走水。
※ほ場全体に水が行き届いたら落水を行うことで少しずつ水に慣らし、稲が湛水状態に耐えられるようにする。
※せき板をつけ、ほ場全体に水がいきわたるように入水して水を止める。その後、自然に水が減ったら、田面の足跡に残った水がなくなりかけた頃にまた入水する（間断かんがい）。
→減水と入水の繰り返し！



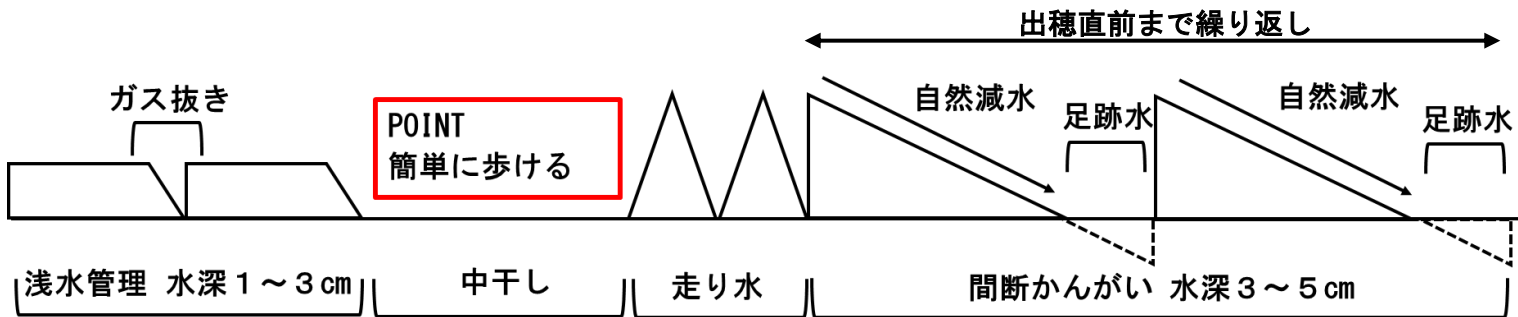
【足跡に残った水】

(5) 中干しのまとめ

○茎の数の推移の目安



○水管理



2. 調整肥について

(1) 調整肥とは

○けい酸や苦土の他、鉄・マンガン・亜鉛などの微量元素を含んだ肥料

資材名	施用時期	施用量
マルチサポート2号	田植え後30日頃	20kg/10a

○調整肥に含まれる要素の例とその効果

要素名	作物体内での働き
ケイ酸	病害虫への抵抗力向上、倒伏軽減、登熟向上など
苦土	光合成促進、リン酸吸収促進など
鉄	光合成、酸化還元反応に関与
マンガン	葉緑素の形成や酸化還元反応などに関与
亜鉛	葉緑素や植物ホルモン、様々な酵素の合成に関与

※窒素は含まず、稲体を硬くしたり、光合成能力を向上し、食味・品質の向上が期待できます。

3. 雑草対策について

(1) 中期除草および後期除草について

○田植後の除草剤で取りこぼした雑草は、中期除草剤、後期除草剤で対応する。

※成分数が少ない初期除草剤を使用した場合には、必ず中期除草剤を散布する。

(2) 中期・後期除草が必要なほ場

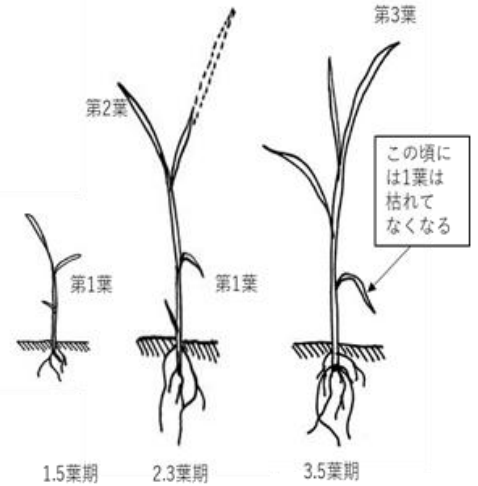
○雑草の発生が早く、成長しており、

緑色の葉が増えている場合。

→田植え2週間後ごろに除草剤の必要性や薬剤の種類を決めておく。

○薬剤選定の3つのポイント

- ① 生えている雑草がヒエかヒエ以外か
- ② ヒエが生えている場合は何枚葉が出ているか
- ③ ほ場の水もちや天候により、落水散布と湛水散布の、どちらが適しているか



(3) 湛水散布と落水散布

○湛水散布：中干しまで(田植後2週間～25日後)の間に多くの雑草を取りこぼし、成長の早いヒエや大きくなりそうなコナギ、ホタルイが多い場合に使用する。

※薬剤成分が広がるまで水位を保つため、水尻のせき板を高くして、できる限り深水で薬剤を散布する。薬剤成分の濃度を安定させるため、7日間は止め水。

※薬剤処理後に1日で水がなくなるほ場は、効果が低下する場合がある。

除草剤名	使用時期	10aあたり 施用量	散布時の 水管理	効果のある雑草	
				ヒエ	ヒエ以外
クリンチャー1キロ粒剤 ※ジャンボ剤、液剤アリ	田植後7日～ノビエ4葉期	1kg	湛水散布	○	×
	田植後25日～ノビエ5葉期 (上記はともに収穫30日前まで)	1.5kg		○	×
ヒエクリーン豆つぶ250	田植後15日～ノビエ4葉期 (収穫45日前まで)	250g	湛水散布	○	×
アトカスジャンボMX	田植後14日～ノビエ3.5葉期 (収穫45日前まで)	500g (20パック)	湛水散布	○	○
ゲパードジャンボ	田植後14日～ノビエ4葉期 (収穫60日前まで)	400g (10パック)	湛水散布	○	○
ウィードコア1キロ粒剤	田植後15日～ノビエ4葉期 (収穫60日前まで)	1kg	湛水散布	○	クサネム他

○落水散布：中干し時の落水と同時に使用する(田植25日後～中干し初期)。

※水を落とし、土に湿り気がある程度の状態で薬剤を散布する。

※茎葉または、根から除草剤の成分を吸収させることで雑草を枯らす。根から吸収する成分もあるが、水たまりがあると効果が劣る薬剤が多いため、散布後3～5日間は入水しない(降雨にも注意)。

除草剤名	使用時期	10aあたり 施用量	散布時の 水管理	効果のある雑草	
				ヒエ	ヒエ以外
ワイドパワー粒剤	田植後20日～ノビエ5葉期 (収穫60日前まで)	3kg	落水散布	○	○
アレイルSC	田植後25日～ノビエ5葉期 (収穫45日前まで)	500ml (水25～100L)	落水散布	○	クサネム他
バサグラン粒剤	田植後15日～55日 (収穫60日前まで)	3～4kg	落水散布	×	○
バサグラン液剤	田植後15日～55日 (収穫50日前まで)	500～700ml (水70～100L)	落水散布	×	○

※水もちが悪く、雑草が多いほ場は、湛水散布と落水散布の併用も有効

→成分使用回数に制限があるため JA や普及所に相談

4. 病害虫といもち病

(1) いもち病

- 置き苗はいもち病の発生源となる。補植後は裏返すなどして早急に処分する。
- 例年発生している場合は、予防としてコラトップ粒剤5を散布する。
- 梅雨入り後7～10日後は初発生が確認されるため、よく観察する。発生を確認した場合は、直ちに緊急防除薬剤を散布する。
- いもち病が発生した場合は、湛水状態を基本に、強い中干しは避ける。



進展型病斑(要注意)



停滞型病斑



置き苗はいもち病の発生源

©2020 農研機構 農薬試験

〈いもち病の予防薬剤〉

薬剤名	本剤の使用回数	使用時期	使用量	使用時の水管理
コラトップ粒剤5	2回以内	葉いもち初発10日前～初発時 (出穂30日前～5日前まで)	3~4kg/10a	湛水処理

〈いもち病の緊急防除薬剤〉

薬剤名	本剤の使用回数	使用時期	使用量	使用時の水管理
ブラシン粉剤DL	2回以内	収穫7日前まで	3~4kg/10a	散布

※ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、JA、普及所にご相談を。

(2) 紋枯病

- 発生源は菌核。発生したほ場では、秋に菌核がつくられ、田面で越冬する。ワラにも菌核がある。
- 7月中旬ごろから発生し始め、8月上旬にかけて、発生範囲が広がる。その後、茎の上方向に向かって進展していく。
- 昨年、紋枯病が多発した水田では、菌核が残っているので予防としてリンバー粒剤等の薬剤を散布する。



株元の紋枯病の病斑

©2020 農研機構 農薬試験

薬剤名	本剤の使用回数	使用時期	使用量	使用時の水管理
リンバー粒剤	2回以内	収穫30日前まで	3~4kg/10a	湛水散布

次回は7月1日(土)午後1時30分予定

ぜひ、ご参加ください